

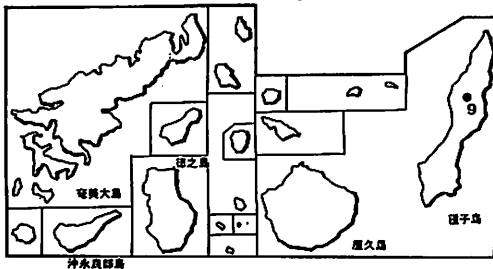
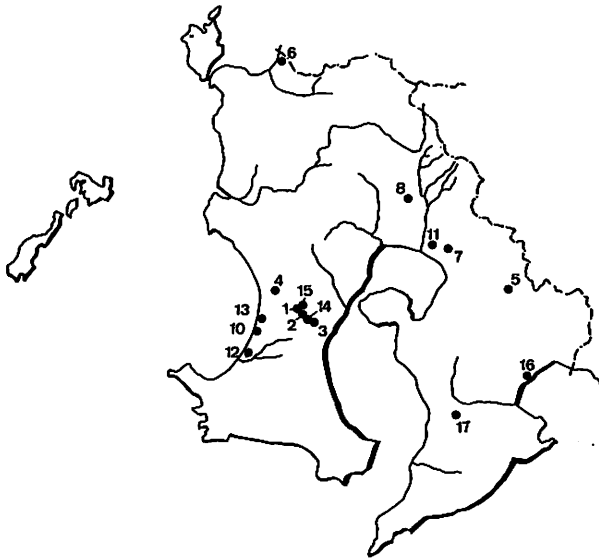


# 埋文だより

第11号

平成8年6月30日発行

## 今年度の調査



### 埋文センターが支援する市町村関係発掘調査

| 遺跡名   | 所在地  | 調査予定    | 調査の種類 | 備考   |
|-------|------|---------|-------|------|
| 田志木名  | 和泊町  | 4月      | 確認調査  | 調査終了 |
| 一瀬松山  | 上屋久町 | 5月      | 確認調査  | 調査終了 |
| 前之迫   | 長島町  | 5月      | 全面調査  | 調査終了 |
| 大蔵庵   | 阿久根市 | 5月      | 確認調査  | 調査終了 |
| 北山    | 阿久根市 | 5月      | 確認調査  | 調査終了 |
| 下原    | 天城町  | 6月      | 確認調査  | 調査終了 |
| 向得原   | 吉田町  | 6月      | 確認調査  | 調査終了 |
| 軍原    | 高山町  | 6月      | 確認調査  |      |
| 曲之城   | 東串良町 | 6月      | 確認調査  |      |
| 兼久指原  | 天城町  | 6月～7月   | 確認調査  |      |
| 出水貝塚  | 出水市  | 6月～7月   | 確認調査  |      |
| ウシロマタ | 伊仙町  | 6月～7月   | 確認調査  |      |
| 持鉢松   | 金峰町  | 7月～10月  | 確認調査  |      |
| 志良辺堂外 | 知名町  | 7月      | 確認調査  |      |
| 倉木崎   | 宇検村  | 7月      | 確認調査  |      |
| 前兼久B  | 知名町  | 7月      | 確認調査  |      |
| 別心    | 松元町  | 7月      | 確認調査  |      |
| 鑄河    | 牧園町  | 7月～8月   | 全面調査  |      |
| カムイヤキ | 伊仙町  | 7月～8月   | 全面調査  |      |
| 北野天神  | 南種子町 | 7月～8月   | 確認調査  |      |
| 中津川   | 薩摩町  | 8月～9月   | 全面調査  |      |
| 横峰    | 南種子町 | 8月～10月  | 確認調査  |      |
| 横高尾   | 大根占町 | 8月～10月  | 確認調査  |      |
| 志戸子   | 上屋久町 | 9月      | 確認調査  |      |
| 炉木    | 内之浦町 | 9月～10月  | 確認調査  |      |
| 金吹ヶ段  | 串木野市 | 9月～10月  | 確認調査  |      |
| 京塚    | 中種子町 | 10月     | 全面調査  |      |
| 日守    | 西之表市 | 10月～11月 | 全面調査  |      |
| 崩尻    | 垂水市  | 10月～11月 | 確認調査  |      |
| 小市原   | 樋脇町  | 11月     | 確認調査  |      |
| 南十三塚  | 溝辺町  | 11月     | 確認調査  |      |
| 楠原    | 有明町  | 12月～1月  | 全面調査  |      |

### 埋文センターが調査する遺跡

| 遺跡名        | 所在地       | 調査予定   | 調査の種類 | 備考   |
|------------|-----------|--------|-------|------|
| 1 前原       | 松元町福山     | 4月～10月 | 全面調査  |      |
| 2 前山       | 松元町石谷     | 4月～9月  | 全面調査  |      |
| 3 宮尾       | 松元町石谷     | 4月～9月  | 全面調査  |      |
| 4 永迫平跡     | 伊集院町・東市来町 | 11月～3月 | 確認・全面 |      |
| 5 桐木跡      | 末吉町跡      | 4月～3月  | 確認・全面 |      |
| 6 鳥越平跡     | 出水市跡      | 9月～11月 | 確認調査  |      |
| 7 上野原      | 国分市上之段    | 4月～3月  | 全面調査  |      |
| 8 東免跡      | 溝辺町       | 4月～3月  | 確認・全面 |      |
| 9 三角山II跡   | 中種子町砂中    | 5月～3月  | 確認・全面 |      |
| 10 市場跡     | 金峰町・吹上町   | 10月～3月 | 確認調査  |      |
| 11 本御内     | 国分市中央     | 5月～6月  | 全面調査  | 調査終了 |
| 12 白米原     | 金峰町宮崎     | 8月～9月  | 全面調査  |      |
| 13 伊作城跡    | 吹上町中原     | 8月～9月  | 立会い   |      |
| 14 仁田尾(県道) | 松元町石谷     | 4月～6月  | 全面調査  | 調査終了 |
| 15 炉堀      | 松元町石谷     | 10月～3月 | 全面調査  |      |
| 16 後迫      | 大崎町益丸     | 6月～7月  | 確認・全面 |      |
| 17 中尾      | 吾平町上名     | 8月～9月  | 全面調査  |      |

### 目次

|             | 頁   |
|-------------|-----|
| ・発掘調査中の遺跡   | 1   |
| ・発掘調査紹介(10) | 2～3 |
| ・前之迫遺跡      |     |
| ・反射炉跡       |     |
| ・東免遺跡ほか     |     |
| ・仁田尾遺跡      |     |
| ・学習展示室から    | 4   |
| 一奄美諸島       |     |
| ・発掘調査の手順(4) | 5   |
| 一緊急調査       |     |
| ・速報展のご案内    | 5   |
| ・県民セミナー     | 6   |
| 埋文友の会へのお誘い  |     |
| おもなできごと     |     |

## 発掘調査紹介(10)

## 1,500年ぶりのきらめき

前之迫遺跡《所在地：長島町蔵之元》

前之迫遺跡は、水田の排水路工事中に多量の土器片が出土したことがきっかけとなって、平成8年5月に発掘調査が行われました。

遺跡は天草海峡を隔てて、天草下島（熊本県牛深市）が見える標高約60mの台地端部に位置しています。



出土したガラス小玉など

今回の調査では、ひとつの遺物包含層から旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・鎌倉時代の遺物が多量に出土しました。もっとも多く出土したのは、弥生時代と古墳時代の土器で、これらのなかには熊本県との交流が窺える土器も見られました。珍しい遺物としては、古墳時代の装飾品であるガラス小玉3点・水晶小玉1点・管玉1点が出土したほか、縄文時代の打製石鏃や弥生時代の磨製石鏃などの石器も出土しています。

遺構としては、鎌倉時代の掘立柱建物の柱穴と思われるものが約300個発見されました。

## 江戸期・薩摩の先端技術

反射炉跡《所在地：鹿児島市吉野町磯》

鹿児島市街地から国道10号線の鳥越トンネルをぬけると東側に磯の海水浴場、西側に磯庭園があります。反射炉跡の石垣が公園入口の山手の方にどっしりと残っています。

反射炉とは、炉の中で石炭や木炭などの燃料を燃やし、その炎を壁に反射させて鉄を溶かし、鋳型に流し込んで大砲などを鋳造するものです。



反射炉の基礎石組部分

反射炉の建設は進んだ外国の近代技術文明に追いつくために、江戸時代の終わりごろ第28代薩摩藩主島津斉彬が進めた集成館事業のひとつです。

日本では江川太郎左衛門が作った伊豆菰山の反射炉が有名ですが、鹿児島ではそれよりも早く嘉永6年(1853)1号基が完成しています。

今回の調査は現在残っている反射炉の基礎構造を明らかにすると共に、文献等にみられる2号炉・3号炉等の存在の確認をめざしています。緻密な基礎石組や除湿用の石組のトンネル、多量の耐火レンガや瓦・鉄滓なども発見され、当時の人々の技術の高さを知ることができます。

〈鹿児島市教育委員会 出口 浩〉

## 今夜のおかずはイノシシだ！

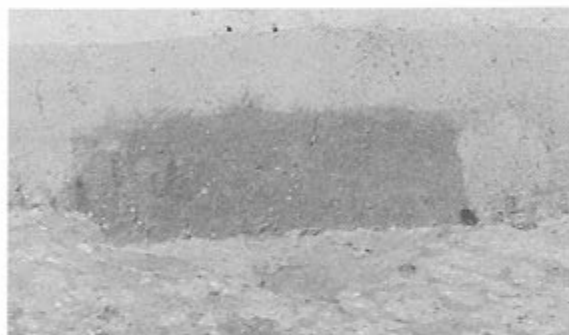
東免遺跡ほか《所在地：始良郡隼人町西光寺》

ひがしめん 東免遺跡・まがりごこ 曲迫遺跡・やまがみ 山神遺跡は「鹿児島臨空団地」の計画地内にある遺跡で、平成8年4月から平成9年3月までの予定で確認調査が始まりました。

この団地は、始良郡隼人町と溝辺町にまたがる約25haの広大な敷地に計画されている工業団地で、その名のとおり鹿児島空港のすぐ近くに位置しています。また、九州自動車道の溝辺鹿児島空港インターに隣接しており、以前発掘調査された曲迫遺跡や山神遺跡の広がりも注目されるどころです。

現在、曲迫遺跡を調査中ですが、これまで旧

石器時代の遺物や縄文時代の後期ごろと考えられる陥し穴（今のところ3基検出）、あるいは古墳時代の土器などが出土しています。特に陥し穴は水辺に向かう谷の傾斜面で検出されており、当時の狩猟方法を知る上で興味深い資料と言えます。



陥し穴の断面

## 旧石器の生活舞台

仁田尾遺跡《所在地：日置郡松元町石谷》

仁田尾遺跡は、南九州西回り自動車道建設に伴って平成5年から平成7年まで発掘調査が行われ、縄文時代や旧石器時代の遺構、遺物が数多く発見された遺跡として知られています。今回調査が行われたのは、北東へ約100mほど行った地点で、県道の拡張工事に伴って発掘調査が行われました。遺跡は標高約190mのシラス台地の上にあり、北西方向にある谷に向かって緩やかに傾斜しています。

今回の調査では、旧石器時代の石器や縄文時代の土器・石器が出土しました。なかでも、旧石器時代の約2万年前の鋭利な刃部をもつナイフ形石器や台形石器、調理のための施設と思われる礫の集まりなどの発見は、当時の人々の生

活を考えるための貴重な資料となるものです。また、これまでの調査の成果と併せ、最後の氷河期のもっとも寒かったこの時期、一帯の台地が当時の人々にとって格好の生活の場所であったことを物語っています。



発掘作業風景

## ～奄美諸島～

種子島・屋久島から南下すると、東シナ海と太平洋とを分ける島々が点々と連なり、台湾島そして中国大陸南部に至ります。これらの島々は大きく南西諸島といいますが、更に島のまとまりから細かく大隅諸島(種子島・屋久島)、トカラ列島(中之島など)、奄美諸島(奄美大島から与論島まで)、沖縄諸島、先島諸島と呼び分けています。そして奄美諸島以北は鹿児島県に、沖縄諸島以南は沖縄県に属しています。

また、この地域は気候が暖かく「亜熱帯地域」と呼ばれ、独特な文化をはぐくんできた地域としても知られますが、先史文化の内容の違いから南西諸島を3地域に分けています。南西諸島の中でも北側に位置する種子島・屋久島は、南九州の文化が色濃く、「南の文化」はわずかにしか現われていません。この地域を「南島北部圏」といいます。そして奄美諸島と沖縄諸島とは、南九州の文化の影響を受けながらも、独自の文化を育てた地域で、この地域を「南島中部圏」と呼びます。先島諸島は南九州の文化はほとんど現れておらず、むしろ東南アジアなどの文化の影響が主に見られる地域で、「南島南部圏」と呼びます。今回は、「南島中部圏」に属する奄美諸島の文化をご案内しましょう。



美しい装飾品や道具の数々

現在のところ、奄美諸島で人間生活を示す最古の遺物は、徳之島伊仙町にある天城遺跡出土の石器で、約3万年前の旧石器時代に属すると考えられています。奄美諸島で土器が使われ始めた時期についてまだわかっていませんが、縄

文前期(約5,500年前)や縄文後期(約3,500年前)に当たる時期には、南九州の人々との交流が大変盛んになったようで、奄美諸島の人々が南九州の縄文土器の影響を受けて作った土器が出土します。この時期の人々は、砂丘地や段丘上で生活をしていました。与論町上城遺跡では、縄文時代晩期から弥生時代後期にかけての竪穴式住居が10基検出されました。住居は2mから3m四方の大きさで、中には炉がありました。これらの住居の中からは土器や石器の他に当時の人々の暮らしを示す様々な遺物が出土しました。奄美諸島の人達はおしゃれだったと見えて、海獣骨製のかんざしやサメ歯のペンダントや、サメの骨で作った耳飾り、猪の牙から作ったプレスレットなどの装飾品が多く出土しています。また、針や錐には猪の骨を使っています。一方大量に出土したブダイ・ベラ・ハタ・ジュゴンなどの魚骨片は食べた後のカスと考えられます。このように当時の人々は海辺では魚貝類を採集し、陸上では猪を捕らえて食べていました。また奄美大島笠利町にある下山田Ⅱ遺跡では、ヘラに使ったと思われる水字貝や今のやかんとして使ったと考えられるホラ貝や夜光貝製のスプーンが出土しています。このように奄美諸島の人々は装飾品や道具を身近で採れる動物や貝から作る知識を持ち、大量に作っていました。

一方、この地域には古墳は造られず「古墳時代」はなく、この時期には弥生時代とほぼ同様の生活をしていたと考えられています。朝廷がこの地域に注目するのは9世紀以降で、大宰府(今の福岡県)からは朝廷に納めた時につけていた木簡と呼ばれる荷札が出土し、この時奄美諸島が初めて朝廷の権力下に置かれたと考えられています。しかし、この地域の権力者が大きな力を持つのは11世紀から12世紀にかけての時期で、この時期の南西諸島の様相については『埋文だより』第9号「学習展示室から～鎌倉・室町時代～」の中で説明してあります。

## 発掘調査の手順(4)

## ～緊急調査～

開発事業を行う人と県・市町村の文化財保護にたずさわる人の「協議」の結果、現状保存および設計変更が不可能な遺跡については発掘調査が行われます。このような発掘調査を緊急発掘調査、または全面調査、本調査などと呼んでいます。

緊急発掘調査は、確認調査の結果をもとに、開発される全域を調査し、そこから発見された考古学上の遺構・遺物を十分に記録・採集することが第一の目的となります。そのためには相

当がかりな組織と費用がかかります。

このように、緊急発掘調査は、総合的・組織的に遺跡を発掘調査して、遺跡の全体的把握や所属時期、性格、個々の遺構の問題と遺構相互の有機関係などを遺跡・遺物によってより厳密に明らかにして検討しようとするものであります。発掘調査にあたっては、調査目的と綿密な計画・組織・方法・技術をもって実施しなければなりません。

## 速報展のご案内

速報展は、最新の発掘成果をいち早く県民の皆様に紹介するコーナーです。

現在の展示は、平成7年度に発掘調査を行った前山遺跡・中原遺跡・ウフタ遺跡・六ツ坪遺跡・終原貝塚・火ノ上山遺跡・藤兵衛坂段遺跡・白糸原遺跡・鳥越古墳群、さらに整理作業を行った上野原遺跡・干迫遺跡の各遺跡の出土品や遺構写真などで構成されています。

前山遺跡では、A T(約22,000年前の火山灰)より古い層から旧石器時代の石器が発見されました。ウフタ遺跡では多重構造の石積み竪穴住居跡が、六ツ坪遺跡では弥生時代前期の竪穴住居跡が見つかり注目を集めました。

その他にも、終原貝塚の縄文時代晩期(約2,300年前)の人骨・藤兵衛坂段遺跡の畑跡・鳥越古墳の竪穴式石室など様々な発見が話題と

なりました。

平成7年度は県内で約120ヶ所で発掘調査が行われました。展示してあるものはそのごく一部ですが、新発見資料をぜひ見学に……!



新発見資料が並ぶ速報展示場

## 第5期(平成8年度)長期研修講座はじまる

平成8年度長期研修講座は、9名の受講者を迎えて5月7日(火)に始まり、11月6日(水)までの期間行われます。

受講者は次の通りです。

徳重 博文(東郷町) 久保山 靖(蒲生町) 三好 健一(溝辺町)  
海江田 穂積(牧園町) 小村 辰也(財部町) 田之上 宏一(末吉町)  
中水 忍(有明町) 岩元 秋見(大根占町) 下大川 司(根占町)

## 「埋文友の会」へのお誘い

県民セミナーへの参加者を母体にして、平成7年の4月に正式発足した「埋文友の会」は、会を重ねるごとに規模も大きくなり、6月末現在で会員が発足時の約3倍強（137名）となりました。

これまで、実施した講座が合計19回。この中には「あいらの旅」「指宿・知覧の旅」と銘打

った史跡巡見や松元町前原遺跡での発掘体験も含まれています。

通常の講座は、「偶数月の第4土曜日午後、埋蔵文化財センターの研修室で2講座」を原則として実施・計画しています。

今年度から年会費2千円となり、さらに充実した会運営が期待されるところです。

## おもなできごと 平成8年度人事異動

◎転出者（H8. 4. 1付）

所 長 内村 正弘  
（県教育庁学校教育課指導監へ）

次長兼総務課長 川原 信義  
（県教育庁福利厚生課課長補佐へ）

文化財主事 牛ノ浜 修（黎明館主査へ）

文化財主事 下園 昌三  
（伊集院町立伊集院小教諭へ）

◎退出者（H8. 2. 29付）

文化財調査員 池水 浩子  
（H8. 3. 31付）

文化財調査員 菅牟田 勉

文化財調査員 小川 みゆき

◎転入者（H8. 4. 1. 付）

所 長 吉元 正幸（県立南種子高校教頭から）  
次長兼総務課長 尾崎 進  
（県立図書館総務課長兼総務係長から）

主 査 前屋敷 裕徳（教職員課主査から）

文化財主事 富田 逸郎  
（文化課文化財主事（兼務）から）

文化財研究員 橋口 勝嗣（県立蒲生高校教諭から）

文化財研究員 寺原 徹  
（鹿児島市立谷山中学校教諭から）

文化財研究員 元田 順子  
（日置郡金峰町立大坂小学校教諭から）

文化財研究員 黒川 忠広  
（西之表市立住吉中学校事務職員から）

文化財調査員 芝 貞夫  
（鹿児島市立坂元台小学校校長から）

文化財調査員 宮田 茂樹（新規採用）

文化財調査員 鎌倉 綾（新規採用）

文化財調査員 竹ノ内 有里（新規採用）

## 県民セミナーのお知らせ

歴史のふるさと県民セミナーは、昨年までは「古代を探る」と題して年6回の講座を開いておりましたが、本年度は「発見・感動・よみがえる古代のかごしま」として、鹿児島考古巡回展を計画しました。巡回展は7月に西之表市種子島総合開発センター、8月に高山町歴史民俗資料館、9月に出水市歴史民俗資料館、11月に知覧町ミュージアム知覧の4ヶ所で開催します。また、各会場では地元に着したテーマの講演会も行ないます。この機会に古代に花開いた鹿児島の歴史と文化に触れてみてください。

また、「発掘体験と古代の生活体験」は、例年どおり夏休み期間中（7月27日）に行なうことになっています。

### 埋文だより 第11号

発行日：平成8年6月30日

編集・発行：

鹿児島県立埋蔵文化財センター  
〒899-56  
鹿児島県始良郡始良町平松6252  
TEL 0995-65-8787  
FAX 0995-65-8117